

貧困と進学

NPO法人
親子ぐるみ支援ネットワーク設立記念講演



奨学金 × ソーシャルワーク
という試みを考える

2017年 **6月24日**(土)
10:00～10:50 (開場 9:45)

10:50～11:30 パネルディスカッション
大学就学で何が問題になっているか

所沢ミュージズ小ホール

入 場 無 料

定員 300 名

講師：**湯浅 誠 氏**
(社会活動家・法政大学教授)

1969年東京都生まれ。東京大学法学部卒。2008年末の年越し派遣村村長を経て、2009年から足掛け3年間に閣府参与に就任。内閣官房社会的包摂推進室長、震災ボランティア連携室長など、政策決定の現場に携わったことで、官民協働とともに、日本社会を前に進めるために民主主義の成熟が重要と痛感する。

現在、法政大学現代福祉学部教授の他、NHK 第一ラジオ「マイあざラジオ」、文化放送「大竹まことゴールデンラジオ」レギュラーコメンテーター、「ラジオフォーラム」レギュラーパーソナリティ、朝日新聞パブリックエディター、日本弁護士連合会市民会議委員。

講演内容は貧困問題にとどまらず、地域活性化や男女共同参画、人権問題などに渡る。

著書に『ヒーローを待たなくても世界は変わらない』（朝日文庫）、第8回大佛次郎論壇賞、第14回平和・協同ジャーナリスト基金賞受賞した『反貧困』（岩波新書）、『貧困についてとことん考えてみた』（茂木健一郎と共著、NHK出版）など多数。

Yahoo! ニュース個人の連載「ミリでも進める子どもの貧困対策」で「オーサーアワード 2016」を受賞。また、法政大学「2016年度 学生が選ぶベストティーチャー賞」を受賞



「親子ぐるみ支援」事業

どのように支援される？ 期待される効果は？

Before

家庭の経済的困窮や
親子関係のこじれ



家族と自身の生活を
賄うため複数の
アルバイトを掛け持ち



不安定な就労で多額の
奨学金返済への不安



大学で学びたい
学問があるけど
親に言い出しにくい…
でもあきらめたくない

大学なんて意味あるのか？

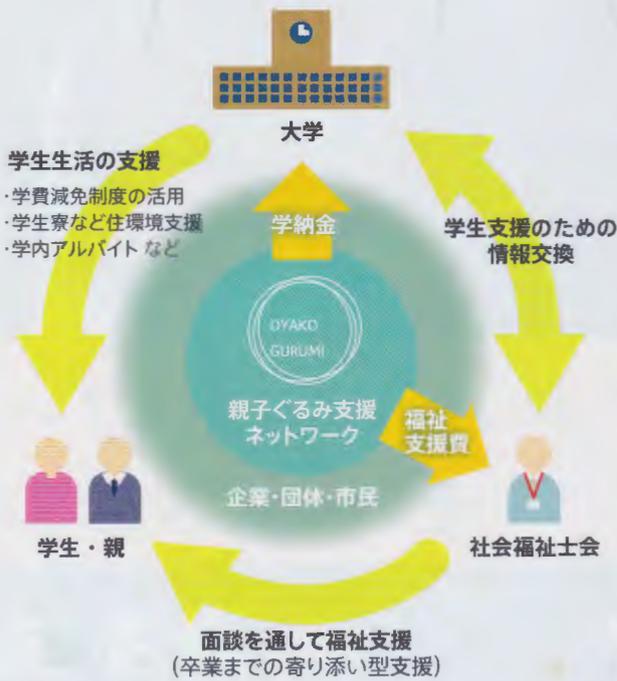


大学には入学した
けれど、勉強時間が
なかなか
確保できない…

生活を切り詰めてまで
大学に行かせるのも…



就職しても
奨学金を返済
しながらの生活は
不安だな…



大学、社会福祉士会と協力して、三者で「卒業までの寄り添い型支援」を実現します。各大学が用意している学生支援に加え、社会福祉士が、支援を必要とする学生とその家族に対し、面談を通じて、家計相談、社会保障制度の情報提供、福祉関係機関との連絡調整等の支援を行います。

After

あきらめず
大学で興味のある
学問を勉強でき
正社員になれた



アルバイトばかりの
生活にならず
しっかり勉強と
両立できた



奨学金返済の
心配がないから
安心して仕事に
打ち込める



子どもの話を聞いていると
行かせて良かった



過度に生活を切り詰めないで
大学へ進学させることができた

